

これまでの活動と記録。

「イマジン・ヨコハマ」では、市民の想を集めるため、874人の市民ボランティアが中心となり、さまざまな活動が行われました。「ワールドカフェ」やボランティアメンバーによって行われた「出張ワークショップ」などで参加者が横浜への想を書いた「気づきのシート」は約1000枚、開国博Y150のアンケートブースで意見を集めた「イメージコレクターズ」では、約3,000件の意見とアンケート・マシンへの約87万アクセスが寄せられるなど、深く、そして多様な意見が集まりました。

●ワールドカフェ

横浜に対する想いや意見を語り合う場として、本プロジェクトのメインイベントとなったのが、この「ワールドカフェ」。「カフェにいるときの気やかな雰囲気」で「会議のような真剣な討議」を可能にするために設計された新しい話し合いの方法です。2009年3月のキックオフワークショップではBankART Studio NYKに約200名、5月のワールドカフェではパシフィコ横浜に約500名のボランティアメンバーが集まり、共創・創発的な対話もたれました。



ワールドカフェ
(パシフィコ横浜)



各テーブルの模造紙に思い思いの言葉やイラストを書きながら語り合った

●出張ワークショップ

研修を受けたボランティアメンバーが、自主的に運営した「出張ワークショップ」。各地域や所属するコミュニティなどで10~30人規模で行われ、それぞれの個性にあふれた語り合いが展開されました。



Imagineハマスボ

●つながりインタビュー

横浜と関わった「体験」や横浜の「未来」について2人1組でインタビューをし合う「つながりインタビュー」。イマジン・ヨコハマのさまざまなワークショップの中で行われ、その後、有志のメンバーの自主的な活動によりさらに広まりました。インタビューの結果はWEB上に374件がアップされ、共有されました。

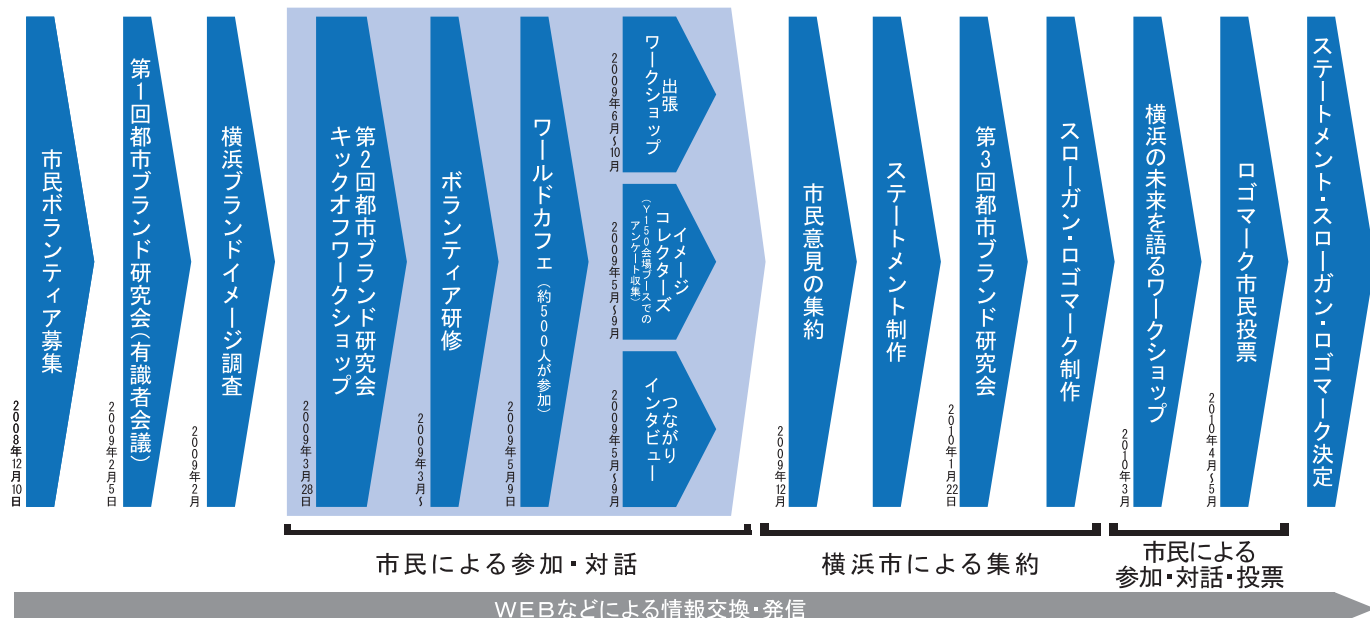
●横浜の未来を語るワークショップ

市民意見をもとに作成された横浜の未来像(ステートメント)の案を共有するとともに、未来の横浜に向けてどんな活動をしていきたいか、アイデアを出し合い、お互いに仲間を募り合うためのワークショップが行われました。

●イメージコレクターズ

横浜にまつわる“なんとなく”のイメージを収集して明確にするために行われた、「イメージコレクターズ」の活動。「開国博Y150」の会場ではボランティアメンバーなどによる来場者へのアンケート・ヒアリング活動が実施されました。

●イマジン・ヨコハマのプロセス



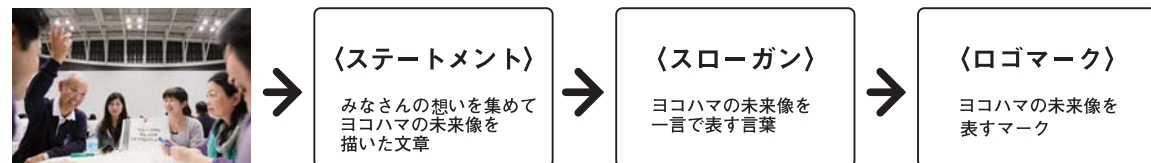
市民参加型都市ブランド共創プロジェクト
「イマジン・ヨコハマ」の軌跡

開港150周年の節目に横浜の都市ブランドをみんなで創るプロジェクト「イマジン・ヨコハマ」は、2008年12月にスタートしました。BankART Studio NYKやパシフィコ横浜で行われた数百人規模のワークショップをはじめ、さまざま場所で行われた活動には横浜を想う多くの方々が参加し、「未来のヨコハマ」をテーマに語り合いました。市民の想いが詰まった成果物をぜひご覧ください。

多くの市民の未来の横浜への想いが、形になりました。

開港150周年という記念すべき年に、横浜では、市民同士が横浜の未来を語り合う活動（イマジン・横浜）が行われ、横浜の未来像を表す「ステートメント」を作成しました。さらに、ステートメントを短い言葉や図柄で表す「スローガン」「ロゴマーク」を作成しました。

市民の皆様の想いの詰まった「ステートメント」「スローガン」「ロゴマーク」は、開港200周年に向けて市民のみならずと共有し、さまざまな場面でお使いいただくとともに、国内外への横浜のイメージ発信に活用していきます。



たくさんの市民意見

ロゴマーク（横浜の未来像のシンボル）

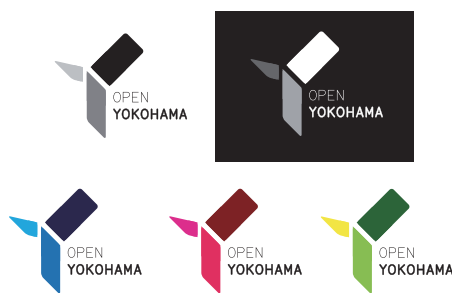


あらゆるものを受け入れる、
もっと開かれた横浜へ。
新しいものを次々と生み出せる横浜へ。
開放的で自由な街に、心地よい風が吹き抜ける。
OPEN。それは、みんなで創る
未来の横浜の合言葉！

■ロゴマークに込められた想い

風車の羽をモチーフにしたマークです。
ステートメントに書かれている、横浜に吹く自由で開放的な風をイメージしたものです。
3つの異なる四角形は、横浜の多様性を表しています。
いろんな人、モノが出会い、交差する場所。
横浜のシンボリックな色である青を3つの濃さで使用することでマークに動きを与えています。

カラーバリエーション



使用イメージ

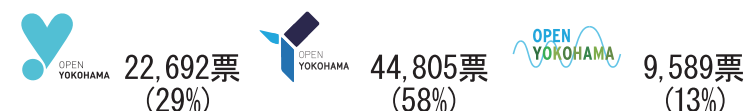


<投票時の候補マーク>



ロゴマークの決定にあたっては、3案で市民投票を行いました。

※投票数 77,086票



スローガン（未来の横浜の合言葉）

OPEN YOKOHAMA

■スローガン作成に込められた想い

OPEN YOKOHAMAは、ステートメントを市民のみならずをはじめ、多くの人にわかりやすく伝えるための言葉です。OPENは、開港を経て発展した横浜にふさわしいコトバです。開放的で自由な横浜らしさを表現しています。市民が自ら新たな活動を生み出すきっかけとなるコトバであり、対外的にも横浜のおもてなしの心を伝えられるコトバです。

ステートメント（横浜の未来像）

笑う。食べる。学ぶ。
働く。遊ぶ。深呼吸する。
生きていくうえで関わるすべてのことが、
手の届く範囲の中にある。
港と丘、文化と自然、歴史あるものと新しきもの。
時には葛藤しながらも、
様々なものをやさしく包み込み、
人が、人と、人らしく、すごせる街。
自然に、自分らしくいられる街。
そんな街で、あなたとわたしが、
出会い、認めあい、高めあう。

それは、ここに暮らす人たちが
自ら思い描いた、未来の横浜。
長い歩みの中で、異なるものを受け入れ、
新たなものを生み出しつづけた横浜の、
もう始まっている未来。

いまと未来をむすぶのは、
開港を経て横浜が育んできた真の多様性と、
住みやすい環境を自分たちで創りだす市民のチカラ。
ここにしかない自由で開放的な風が吹き抜ける。
そんな横浜を、みんなで創りあげよう。

●ステートメントの基になっている市民の皆様の声

— 特徴・強みについて —

多様性を真正面から受け入れるオープンマインドカ

- 開放性と受容するスピリッツを持つ。
- 精神的にもスペース的にも余白やポテンシャルがある。
- 陸海空の交通の要所である。
- 国際的な交流の場である。

自然（海・緑）と街の調和

- ホーリスティック（包括的で、有機的な繋がりがあがる）な生活環境。
- 豊かな自然と便利な都市機能が生活圏に共存する。
- 近世、開港などの歴史を大切に踏まえ新しいことを生み出す
新旧の融合がある。

市民自ら新しいコトを創りあげようとする進取の気風

- 市民としての郷土愛やプライドが強い。
- 積極的に行動する市民力がある。

— 社会価値について —

違いを認め合い、お互いを活かし合いながら高め合う社会を創る

- 人と人との関係を大切にし、ゆとりや対話があり安心できる。
- 多様性を受け入れ、すべての人が個性をこころおきなく活かしている。
- 市民が自ら行動し、街を創り続ける。
- 多様性と共生が課題になる時代のモデルとなり、
世界中の都市にも影響を与えていく。